

製品名: DUSP5 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe86385

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:42 kDa; Observed MW:42 kDa

抗原情報

遺伝子名	DUSP5
別名	DUSP; HVH3
遺伝子ID	1847
SwissProt ID	Q16690
免疫原	ヒト DUSP5 の組み換えタンパク質

背景

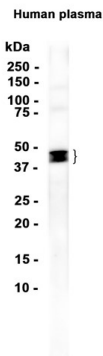
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、二重特異性タンパク質ホスファターゼサブファミリーのメンバーです。これらのホ

スファターゼは、ホスホセリン/スレオニン残基とホスホチロシン残基の両方を脱リン酸化することにより、標的キナーゼを不活性化します。また、細胞の増殖と分化に関連するマイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼスーパーファミリーのメンバー (MAPK/ERK、SAPK/JNK、p38) を負に制御します。二重特異性ホスファターゼファミリーの異なるメンバーは、様々な MAP キナーゼに対して異なる基質特異性を示し、組織分布と細胞内局在が異なり、細胞外刺激による発現誘導様式も異なります。この遺伝子産物は ERK1 を不活性化し、脾臓と脳で最も多く発現し、核に局在します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



DUSP5 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、ヒト血漿組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。